

病気の予防と同時防除と

ダコニール 1000

「ダコニール」、「ダコニール1000」は株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

病気、心配ではないですか？

毎年、困っていませんか？

ダコってみませんか？

心配するくらいなら
ダコ！ 先手必勝です。1作で考えることで
手間とコストを削除！アクセスしてね！
一作で考える病害
防除のポイント発生する
病気と時期
を確認！発生前・初期からの
定期的な予防散布で
感染させない。以降も予防散布を継続。
発病したら治療効果を有する剤を散布。
治まったら予防剤で再感染を防ぐ。

【無人航空機散布剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期※	本剤の 使用回数※	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数※
ばれいしょ	疫病、夏疫病	8	1.6ℓ/10a	7日	5回	無人航空機による散布	5回
しょうが	白星病	16	3.2ℓ/10a	14日			
にんじん	黒葉枯病	8	1.6ℓ/10a	7日			5回(種子への吹き付け処理:1回)
		16	3.2ℓ/10a				
チューリップ	褐色斑点病	10~30	3ℓ/10a	発病前~発病初期	6回		6回

【常温煙霧剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用場所	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期※	本剤の 使用回数※	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数※
きゅうり	温室、ガラス室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	べと病	33	10ℓ/10a	前日	12回	常温煙霧	14回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計12回)
なす		うどんこ病				4回		4回
トマト		すすかび病、葉かび病 褐色輪紋病、うどんこ病	6回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計4回)					
ピーマン		うどんこ病	50			3回		3回
アスパラガス		斑点病、褐斑病	40			4回		4回

【土壌灌注剤あるいは種子消毒剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数※	使用方法	TPNを含む農薬の総使用回数※
稲(箱育苗)	苗立枯病 (リゾープス菌)	500~1000	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り500ml	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	2回	土壌灌注	2回
		1000~2000	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ				
きゅうり	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000	3ℓ/m ²	は種時又は活着後 但し、定植14日後まで	2回	土壌灌注	14回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計12回)
トマト							6回(土壌灌注:2回、散布、常温煙霧、 くん煙及びエアゾル剤の噴射:合計4回)
レタス	ビッグベイン病		1.5~3ℓ/m ²	42日	1回	土壌灌注	5回(土壌灌注:2回、 散布及び無人航空機散布:合計3回)
ブロッコリー	根こぶ病		3ℓ/m ²	定植時			3回(土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機散布:合計2回)
みずな	立枯病			は種時			1回
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	0.5ℓ/m ²	出芽揃い後 (出芽3日後から10日後まで)	1回	土壌灌注	4回(土壌灌注:1回、 散布及び無人航空機散布:合計3回)
わけぎ			セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り0.5ℓ				3回(土壌灌注:1回、散布:2回)
にんじん	黒葉枯病	12	乾燥種子1kg当り60ml	は種前		吹き付け処理 (種子消毒機使用)	5回(種子への吹き付け処理:1回)

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示しています。

2024年6月末日現在

病害の 同時防除に。

クミアイ

農林水産省登録 第16824号

ダコニール 1000



ダコニール1000の特設サイト
ダコニール倶楽部
Daconil Club
daco-club.com



「ダコニール」、「ダコニール1000」は株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

有効成分:テトラクロロイソフタロニトリル(TPN)・・・40.0%w/w 性状:類白色水和性粘糊懸濁液体

※印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示しています。 2024年6月末日現在

【散布剤としての適用病害と使用方法】

作物名	適用病害名	希釈倍數 (倍)	使用 液量	使用時期 [※]	本剤の [※] 使用回数	TPNを含む 農薬の総使用回数 [※]
きゅうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、 褐斑病、灰色かび病、黒星病	1000	1000	前日	12回	14回(土壌灌注:2回、 散布、常溫煙霧、くん煙及び エアゾル剤の噴射:合計12回)
にがうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、 斑点病、つる枯病				4回	4回
ズッキーニ	うどんこ病				3回	3回
こぼろ					5回	5回
ゆうがお	べと病、炭疽病、うどんこ病				4回	4回
うり類(漬物用、 但し、ゆうがおを除く)	べと病、炭疽病、うどんこ病、 つる枯病	700	700	7日	3回	3回
かぼちゃ	べと病、うどんこ病、白班病				5回	5回
すいか	炭疽病	700	700	3日	5回	5回
つる枯病		700～1000				
メロン	うどんこ病	700	700			
つる枯病						
トマト	疫病、葉かび病、輪紋病、 炭疽病、灰色かび病、 すすりかび病、うどんこ病、 褐色輪紋病、斑点病	1000	1000	前日	4回	6回(土壌灌注:2回、 散布、常溫煙霧、くん煙及び エアゾル剤の噴射:合計4回)
ミニトマト					2回	2回
なす	黒枯病、灰色かび病、 すすりかび病、うどんこ病				4回	4回
オクラ	葉すすり病				5回	5回
ピーマン	斑点病、うどんこ病、 黒枯病、炭疽病				3回	3回
はくさい	べと病、白さび病、 白班病、黒斑病	1000	1000	7日	3回(又は定植前の土壌灌和1回、 散布及び無人航空機散布:合計2回)	3回(又は定植前の土壌灌和1回、 散布、無人航空機散布 及びエアゾル剤の噴射:合計2回)
非結球はくさい	白班病			28日	2回	3回(又は定植前の土壌灌和1回、 散布、無人航空機散布 及びエアゾル剤の噴射:合計2回)
キャベツ	べと病、根朽病			14日	3回	3回
なばな類 ^{*2} (なばなを除く)	べと病、白さび病、 白班病、黒斑病			60日	3回	3回
なばな				出蕾前 但し、21日	3回	3回
だいこん	ワッカ症、白さび病、 白班病、炭疽病	1000	1000	45日	5回(土壌灌注:2回、散布 及び無人航空機散布:合計3回)	5回
レタス	灰色かび病			14日	2回	2回
非結球レタス	べと病、すすり枯病			21日	2回	2回
たまねぎ	べと病、灰色かび病、白色疫病			7日	6回	6回
ねぎ	黒斑病、べと病、 小菌核腐敗病、葉枯病、 さび病			14日	3回	4回(土壌灌注:1回、散布 及び無人航空機散布:合計3回)
わけぎ		1000	1000	7日	2回	3回(土壌灌注:1回、 散布:2回)
にんにく ^{*3}	葉枯病、黄斑病、 白班葉枯病、さび病			14日	6回	6回
らっきょう	灰色かび病			3日	3回	3回
アスパラガス	茎枯病、斑点病、褐斑病、疫病			前日	4回	4回
しょうが	紋枯病、白星病			14日	4回	4回
ばれいしょ	疫病	500～1000	100～300 ℓ/10a	7日	5回	5回
夏疫病						
やまのいも	炭疽病、葉斑病、つる枯病	1000	1000	30日	6回	6回
やまのいも(むかこ)				45日	6回	6回

- ★1 うり類(漬物用)に含まれる作物:赤毛ワリ、食用ひょうたん、食用へちま、しるしうり、漬物用すいか、漬物用まくわうり、漬物用メロン、とうがらん、はやとりうり、ゆうがお ●漬物用以外のまくわうりには使用できません。
- ★2 なばな類に含まれる作物:あさまたこ、あすつ、アレック、おおききな、太田かぶ、オータムボエム、大月菜、大野菜、かいらん、かきな、勝山水菜、くきたな、クルッコラ(なばなの栽培)、こうさいたい、こまつな(なばなの栽培)、さいしん、三葉雪菜、四川児菜、たべたい菜、チーメテラーバ、チンゲンサイ(なばなの栽培)、チンゲンソウ(なばなの栽培)、摘菜花、つばみな、なばな、のらぼう菜、博多葉菜、はくさい(なばなの栽培)、はたけな(なばなの栽培)、はなごころ、みずかけな、めいけな
- ★3 葉にんにく、にんにく(花茎)には使用できません。
- ★4 みょうが(莖葉)への使用時期:みょうが(花梗)の収穫14日前まで 但し、花穂を収穫しない場合は開花期終了まで。

△効果・薬害等の注意

- 使用前に容器をよく振ってください(沈殿)。
- 石灰硫黄合剤とは混用しないでください(分解)。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - ①散布は各散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - ②散布にあつては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ④散布薬液の飛散によって動植物及び自動車の塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - ⑤散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。また使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- ストロブトマイシン剤及びホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してからそれぞれを添加してください(薬害沈殿)。
- 稲(稲育苗)の緑化期に使用する場合は、発病後の処理では効果が劣ることがあるので注意してください。育苗箱から希釈液が漏れないよう注意してください。
- りんごに使用する場合は、ゴールドの後代品種(つがる、世界一、ジョナゴールド等)には使用しないでください(薬害)。落花後20日間は散布しないでください(薬害)。
- なしに使用する場合は、二十世紀以外の品種には使用しないでください(薬害)。また、二十世紀でも7月以降には使用しないでください(薬害)。
- 有袋栽培のものに使用する場合は、除袋直後の散布は避けてください(薬害)。
- いちじくに使用する場合は、果実肥大期の初期あるいは夏期高温時の散布は避けてください(薬害)。
- ねぎ及びわけぎに土壌灌注する場合、は種時から出芽直後の処理は避けてください(生育抑制)。
- レタスに使用する場合は、高温期の灌注は避けてください(生育遅延)。
- しそに使用する場合は、葉にかららないよう株元に散布してください(汚れ)。

●ラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●空容器は圃場などで放置せず3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 この印刷物の記載内容は2024年6月末日現在のものです。 2024年7月作成(東宣)

- 常溫煙霧として使用する場合は、次の事項に注意してください。
 - ①専用の常溫煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常溫煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
 - ②煙霧が直接作物体に当たると汚れが生じるおそれがあるため、施設上部に噴頭部を設置するなど煙霧が作物体に直接当たらないように注意してください。
 - ③作業は出来るだけ夕方に行い、終了後は6時間以上密閉してください。
- 花き類・観葉植物に使用する場合は、着色期以降の散布は避けてください(白班)。また、薬液による汚れが生じるおそれがあるため、収穫間際の散布は避けてください。ただし、球根生産(チューリップ)の場合は、問題なく使用できます。
- みずかけな(水掛菜)、カラー及び花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用してください。また、使用後14日間は入水しないでください。
- 芝に使用する場合は、夏期高温時の散布、特に暖地では注意してください(薬害)。
- 使用量・使用時期・使用方法を守ってください。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

△安全使用上の注意

- 誤飲などに注意してください。
- 眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください(刺激性)。
- 皮膚に付着しないよう注意してください。皮膚に付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とす(刺激性)。
- 夏期高温時は使用しないでください。
- 使用の際は保護クリームをつけ、農業用マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣等を着用してください。空容器は直ちに身体を

- 洗い流し、洗眼・うがいをして衣服を換えてください。作業時の衣服等は他と分けて洗濯してください。
- かぶれやすい人は作業に従事しないでください。施用した作物等に触れないでください。
- 桑葉にからないように注意してください(蚕害)。
- 道路、公園等で使用する場合は、使用区域に縄圍いを立てて、使用中及び使用後(最小限その当日)に関係者以外は立ち入らせないでください。小児、人畜等に留意してください。
- 常溫煙霧中はハウス内へ入らないでください。また常溫煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後入室してください。
- 魚毒性等・・・水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがありますので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意してください。養殖池周辺での使用は避けてください。使用した苗は養魚田に移植しないでください。移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響があります。河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 散布器具・容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 漏出時は、保護具を着用し、布・砂等に吸収せしめ回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 火災時は適切な保護具を着用し、水・消火剤等で消火に努めてください。
- 使用量に合わせ薬剤を調整し、使いきってください。
- 保管・・・密栓し、直射日光を避け、食品と区別して冷涼な場所に保管してください。

2416(24-7)

JAグループ



農 協



経済連

全農 は登録商標 第4702318号



自然に学び 自然を守る

クミアイ化学工業株式会社

本社:東京都台東区池之端1-4-26 〒110-8782 TEL:03-3822-5036

ホームページ <https://www.kumiai-chem.co.jp>